CHAPTER 3

Prime Collaboration を使用する前に

Prime Collaboration への移行が完了した後で、すべての Prime Collaboration 機能を使用できるようにするには、特定の作業を実行する必要があります。Prime UOM、Prime USM、Prime UPM、または Prime CM から移行した後で実行する必要のある作業に関する情報について、Prime Collaboration Assurance を使用する前におよびPrime Collaboration Provisioning を使用する前にの項を確認してください。

Prime Collaboration へのログイン

クライアント ブラウザを使用して、Prime Collaboration を起動できます。

Prime Collaboration にログインするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 マシンからブラウザ セッションを開きます。サポートされているブラウザに関する情報については、『*Cisco Prime Collaboration Quick Start 9.0*』を参照してください。

統合モードでは、Prime Collaboration Assurance サーバの IP アドレスを指定します。スタンドアロンモードでは、起動する UI に基づいて、Prime Collaboration Assurance または Provisioning の IP アドレスを指定します。

ステップ 2 次の*いずれか*を入力します。

- **http:**//*IP Address*
- **https:**//*IP Address*

（注） Prime Collaboration Assurance または Provisioning サーバの IP アドレスとホスト名のどちらも使用できます。ホスト名が DNS で設定済みの場合は、ホスト名を使用することを推奨します。

使用しているブラウザに応じて、次のいずれかが表示されます。

- Windows Internet Explorer の場合は、[Certificate Error: Navigation Blocked] ウィンドウが表示されます。
- Mozilla Firefox の場合は、[Untrusted Connection] ウィンドウが表示されます。

これらのウィンドウが表示されるのは、Prime Collaboration が自己署名証明書を使用しているためです。

ステップ 3 SSL 証明書の警告を削除します。

Prime Collaboration のログイン ページが表示されます。

ステップ 4　Prime Collaboration のログイン ページで、*globaladmin* としてログインする必要があります。設定中に指定したクレデンシャルと同じクレデンシャルを使用します。

Prime Collaboration ランディング ページとともに、使用開始のポップアップが表示されます。ここでは、[System Setup] や [Manage Network] の下のリンクをクリックして Prime Collaboration サーバの初期設定を行うことができます。

（注）　インストール後に、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションと Prime Collaboration Assurance との統合を、Prime Collaboration Assurance UI を使用して行うことができます。Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance を統合する方法の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』の「*Cisco Prime 360 Integration*」の項を参照してください。

Prime Collaboration Assurance を使用する前に

Prime Collaboration Assurance に移行した後で、機能が期待どおりに動作することを確認するために、次の表に示す作業を行う必要がある場合があります。

表 3-1　Prime Collaboration Assurance を使用する前に

	作業と説明	Prime Collaboration Assurance スタンドアロン サーバでのナビゲーション
1.	[Job Management] ページに移動します。実行状態のジョブがないことを確認します。 自動検出が完了しているかどうかを確認します。	自動検出が完了しているかどうかを確認するには、[Administration] > [Job Management] ページに移動し、実行状態のジョブがないことを確認します。
2.	ライセンス ファイルを追加します。	[Administration] > [License Management] 詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。「ライセンスおよび移行」も参照してください。
3.	すべてのデバイスの再検出をトリガーします。	[Operate] > [Device Work Center] > [Discover Devices]
4.	すべてのデバイスが [Managed] 状態にあるかどうかを確認します デバイス管理機能の変更を参照してください。	[Operate] > [Device Work Center] デバイスの管理の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Device Management Guide 9.0*』を参照してください。
5.	Cisco 1040 Sensor を再設定します	詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide 9.0*』を参照してください。
6.	移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance で機能の変更の詳細を確認します。	

デバイス検出が完了すると、Prime Collaboration の機能を使用できるようになります。障害管理とネットワーク モニタリングができるようにするための機能については、『*Cisco Prime Collaboration Fault Management Guide 9.0*』および『*Cisco Prime Collaboration Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide 9.0*』を参照してください。

移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance

Prime UOM、Prime USM、Prime Collaboration Manager の各アプリケーションの機能のほとんどは Prime Collaboration に移行されているので、追加設定を行わなくてもその機能の使用を開始できます。

表 3-2 は、Prime Collaboration で設定を再度実行する必要がある機能の詳細です。また、サポートされていない機能も示します。

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
Prime UOM/Prime USM の機能		
クラスタ デバイス検出	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません。	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cluster Data Discovery Settings]
デバイス再検出のスケジュール	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center] > [Discover Devices]
電話 XML 設定	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [IP Phone XML Inventory Collection Settings]
電話インベントリ収集の設定	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [IP Phone Inventory Collection Settings]

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance （続き）

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
レポートのエクスポートの設定：	No	設定する場所： • [Report] > [Interactive Reports] > [Activity Reports] > [Export Audio Phones] • [Report] > [Interactive Reports] > [Activity Reports] > [Export Video Phones] • [Report] > [Static Report] > [Event History] • [Interactive Reports] > [Call Quality Event History Reports] > [Export] • [Interactive Reports] > [Call Quality Reports] > [Export Most Impacted Endpoints]
イベントのカスタマイズ	No	設定する場所： [Alarm & Event Configuration] > [Event Customization] イベント抑止と重大度をカスタマイズできます。イベント名はカスタマイズできません。
Event History レポート		使用できる場所： [Report] > [Static Reports] [Reports] ペインの [Event History] を選択します。
Syslog カスタマイズのサポートの設定	No	[Administration] > [Event Customization] で再作成できます。
ユーザ定義グループ	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
RBAC ユーザ	一部	カスタム ロールは移行されません。詳細については、RBAC 機能の変更を参照してください。
NBI プリファレンスの設定	No	サポートされていません。
PTM の設定	Yes	該当なし
保存されたレポート	No	[24-Hour IP Phone Status Reports]、[Event History Report]、[24-Hour Video Phone Status Reports]、[Service Quality History] が保存されている可能性があります。これらは移行されません。保存されたレポートを手動でコピーする必要があります。

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance （続き）

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
SMTP サーバ	No	設定する場所： [System Setup] > [Assurance Setup] > [General Settings]
Prime Collaboration Manager の機能		
ユーザ定義グループ	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center] > [Create Group]
インベントリのスケジュール	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
TMS および CTS MAN のクラスタ設定	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
スタティック レポート	No	設定する場所： [Reports] > [Static Reports]
ユーザ プリファレンスの設定	No	機能は使用できません。
レポート	No	以前のインストールから手動でコピーします。

デバイス管理機能の変更

デバイス クレデンシャルは、Prime Collaboration ではクレデンシャル プロファイルを使用して管理されます。クレデンシャル プロファイルを作成および更新する方法については、『*Cisco Prime Collaboration Device Management Guide 9.0*』の「*Managing Device Credentials*」の項を参照してください。

デバイスが Prime Collaboration で [Managed] 状態となるには、すべての必須クレデンシャルが Prime Collaboration データベースに存在する必要があります。Prime UOM では、デバイスの SNMP クレデンシャルだけがデータベースにある場合は [Partially Monitored] 状態になります。ただし Prime Collaboration では、SNMP クレデンシャルが使用可能であっても、デバイスは [Inaccessible] 状態になります。クレデンシャル プロファイルのすべての必須クレデンシャルを追加し、Prime Collaboration でデバイスを再検出する必要があります。

Prime UOM を使用して管理していたデバイスのクレデンシャルを編集するには、[Manage Credentials] ページ（[Operate] > [Device Work Center] > [Credential Profile]）でクレデンシャル プロファイルを追加してから、再検出を実行する必要があります。

新規デバイスを追加するには、[Manage Credentials] ページでクレデンシャル プロファイルを追加してから、デバイスを検出する必要があります。

RBAC 機能の変更

Prime UOM で作成されたユーザは移行され、Prime UOM で付与されたパスワードを引き続き使用できます。ユーザに関連付けられたロールとデバイス レベル アクセスは移行されません。

Prime Collaboration のシステム定義ロールおよび対応する特権の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。

Prime UOM で作成されたユーザに、移行後に Prime Collaboration で割り当てられるロールの詳細については、表 3-3 を参照してください。

表 3-3　ユーザおよびロール

Prime UOM のユーザ	Prime Collaboration でのロール
guest	Help Desk
完全な権限を持つユーザ	5 つすべてのロール
カスタム ロールを持つユーザ	Help Desk
デバイス レベルの権限を持つが、ロールは割り当てられていないユーザ	Help Desk
ロールが割り当てられていないユーザ	Help Desk
ユーザ名として globaladmin を持つユーザ	移行されません。

Prime Collaboration Provisioning を使用する前に

Prime Collaboration Provisioning に移行した後で、機能が想定どおりに動作することを確認するために、次の表に示す作業を行う必要がある場合があります。

表 3-4　Prime Collaboration Provisioning を使用する前に

	作業と説明	Prime Collaboration Provisioning スタンドアロン サーバでのナビゲーション
1.	シングル サーバ展開では、サービスを再起動します。 分散サーバ展開の場合： • アプリケーション サーバのサービスを停止します • データベース サーバのデータベース サービスを再起動します • アプリケーション サーバのアプリケーション サービスを再起動します。	『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。
2.	次の同期プロセスを実行することを推奨します。 • インフラストラクチャの同期化 • 加入者の同期化	『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide 9.0*』を参照してください。
3.	新しいライセンス ファイルを追加します。 製品を評価中の場合、この手順は任意です。 Prime UPM からコピーされたライセンス ファイルは、/opt/cupm/license に配置されます。Prime Collaboration 9.0 アップグレード ライセンス ファイルが /opt/cupm/license/ にコピーされている必要があります。	[Administration] > [License Management] プロビジョニングのライセンス ディレクトリにライセンスが配置されるように、必ずライセンス タイプとして [Provisioning] を選択してください。ライセンス ディレクトリのすべてのライセンスの MAC アドレスが一致する必要があります。

表 3-4　Prime Collaboration Provisioning を使用する前に （続き）

	作業と説明	Prime Collaboration Provisioning スタンドアロン サーバでのナビゲーション
4.	個別のユーザ ID を使用する 1 人以上の管理者を作成します。システムが追跡目的で個々の管理者を識別できるようになります。 （注）　これは、パスワードを忘れた場合に globaladmin がロックアウトされることの対策としても推奨されます。globaladmin の特権を持つバックアップの管理者を設定することを推奨します。	
5.	管理者を追加します	[Administration] > [Manage User]
6.	コールとメッセージのプロセッサを追加および設定します。	[Design] > [Set Up Devices] > [Devices Setup]
7.	ドメイン展開を設定します • ドメインを作成し、コールとメッセージのプロセッサを割り当てる • サービス エリアを作成する • ルールを設定する	[Design] > [Set Up Deployment]
8.	Cisco UCM を設定するためのテンプレートを作成して展開します。	[Deploy] > [Infrastructure Configuration]
9.	ユーザ/加入者をドメイン グループに割り当てます。	[Deploy] > [Subscriber Management] > [Add Subscribers]
10.	オーダー ワーク フローを設定します	[Deploy] > [Order Management]
11.	機能の変更に関する情報については、移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning の項を参照してください。	

移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning

Prime UPM で使用されていた機能のほとんどは Prime Collaboration に移行されているので、追加設定を行わなくてもその機能の使用を開始できます。

表 3-5 は、Prime Collaboration で設定を再度実行する必要がある機能の詳細です。また、サポートされていない機能も示します。

表 3-5　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning

機能	移行時にサポートされる	移行後の作業
ログ ファイル	No	Provisioning のログ ファイルは次の場所にあります。 /opt/cupm/sep/logs
IOS 設定テンプレート	No	テンプレートに追加されたカスタマイズは、移行後は使用できません。 サンプル テンプレートは次の場所にあります。 /opt/cupm/sep/ipt/ios-pre-built
レポート	No	以前のインストールから手動でコピーします。

移行後に、[Domain Configuration] > [View Domain] > [Export Phones Without Associated Users] ページの [View Export Data File] リンクをクリックすると、「Page Not Found」エラーとなります。データを表示するには、コール プロセッサを選択し、[Export] をクリックしてレポートを再びエクスポートしてから、[View Export Data File] リンクをクリックする必要があります。

Prime Collaboration では、[Administration] メニューで定義できる LDAP/AD ソースは 1 つだけです。非フェデレーション環境のためにこれよりも多く必要な場合は、Prime Collaboration Provisioning サーバで作成して異なるドメインに割り当てることができます。